20210404レムナント教会1部

**イエスの復活の祝福(マルコ16:19-20)**

　今は世界中がコロナのパンデミックで苦しんでいます。そして、統計によりますと、そのコロナによって自殺する人の数が増加の一途をたどっているということを聞いております。様々な理由があるのでしょうが、このコロナ禍におけるいろいろなつまずきによって生きる気力を失い、生きる希望を失ってしまったという人が多くなっているということではないでしょうか。生きる自信をなくして絶望感に捕らわれる人が増えてきているというお話です。

このようなときに私たちは、イエス・キリストの復活をお祝いし記念して礼拝を捧げております。そこには非常に大きな意味があるし、ここに集っている兄弟姉妹の皆さんが、イエス・キリストの復活のメッセージを自分の契約として握って、その復活の力をいただき、そのイエスの復活の証人として、苦しんでさまよいつつ希望を失っている世の中におあかししていくべく礼拝であるということをともに覚えていきたいと願います。

イエス・キリストは死者の中から預言通りに三日目によみがえられました。そのイエスの復活にあるメッセージ、祝福は何なのかということを、今日、契約として握っていただきましょう。

　1.その第一は、イエスの復活は人生のすべての絶望に終止符を打つ事柄です。

イエス・キリストが復活なさることによって、 人生のすべての絶望に終止符を打ちました。それを理解するために私たちは素直に問いかける必要があると思います。今私たちが生かされているこの世に希望はあるのでしょうか。希望などないのでしょうか。今はコロナのことで皆が希望を失い、がっかりするしかないと思うかもしれません。なら、コロナ以前は、この地球に、この世に希望はあったのでしょうか。今のまま科学がどんどん発展していけば、技術が進歩して、医学が発展していけば、この地球は変わるのでしょうか。この世は本当にどこかに希望を持てるところなのでしょうか。

聖書は今私たちが生きているこの世に対してこのように語っています。この世はもうすでに死んでいるところなのだと。この世に対して死という言葉を使っていることを覚えていてください。ローマ6：23には「罪から来る報酬は死です」とあります。エペソ2：1にも「自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって」と言われています。その理由についてローマ3：23には「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」と書いてあります。人は、そして、この世は罪によってもうすでに死んでいるところなのだと言っています。ですから、どう頑張ってもがいて努力をしていてもへブル2：15に証言されているように、この世は「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた」と言われるところです。死、そこから何の希望が見込めるのでしょうか。死という言葉が意味することはなんでしょうか。それは絶望なのです。希望などは一ミリたりとも見込めない状態を死と言います。なのでこの世は絶望が基本であり、絶望を基礎にして、絶望が運命を抱えてるところだと聖書は証言しています。時代がどう変わろうが、また、科学がどのように進歩していようが、そういうことによって希望などは見込めません。この世は絶望のところ、基本的に死んでいるところです。死という意味をもう少し正しく理解するためにいのちが何かを考える必要があります。[死]とは、息が止まったという単純な話ではありません。逆にいのちというのも、息をしているからいのちというわけでもありません。

神様はこの世界と人間を創造されました。神様が創造されたときには、死などはありませんでした。死は神様の創造物ではありません。神はいのちそのものです。なので神様はいのちを創造されました。先ほども申し上げましたように、いのちはただ呼吸をしているという意味ではありません。いのちとは、神様が人間だけを特別に神のかたちに造られて(創世記1：27)与えられたものです。人間だけが宇宙の中で唯一神様がともにおられ、神様と交わりができる霊的な存在、神のかたちに造られました。そのために創世記2：7には、人間を形造って、その鼻に息(いのち=聖霊)を吹き込んで、それでやっと人間となったと言われるわけです。それが人間というものです。いのちである神様が共におられることにより生まれるものがいのちです。なのでいのちと言われるときには、呼吸がまだつながっているという意味ではなくて、神がともにおられる状態をいのちと言います。なので神が共におられるいのちというのは、そのいのちの中にまことの人間の幸せ、まことの平安、そして、人間のまことの価値、生きがい、神様に対する賛美や感謝、結局人生の本当の勝利などが全部ひっくるめてその中にあるものをいのちと言います。ただ息をしていればその人は生きているといった単純な話ではありません。死というものは息が途絶えることではなくて、このいのちが消えていのちがなくなった結果生じるもの、生まれるものを死と言います。

暗やみ、やみというものは元々ありません。光があって、その光が遮断されたところに影ができてやみが生じるようになるものなのです。そこにもし光が入ってきたらやみは消えてなくなります。元々やみがあったわけではありません。元々死があったわけでもありません。いのちだけがあったのに、そのいのちが奪われてしまった結果、そこに死が生まれ、やみの世界が生まれることになった、これが聖書の証言であり、死の意味なのです。ですから、この世が死んでいると言われるときのその死というものは、この尊い神から与えられているいのちを奪われて、いのちを失った状態を意味します。つまり、いのちの根源である神様から離れてしまったことが死というものなのです。

なので、死というものは、単に息が終わったという単純な話ではなくて、人生のすべての不幸、人生ののろい、わざわい、悲しみ、憎しみ、苦しみ、そして、地獄の苦しみ、地獄の運命などをひっくるめて全部を死というわけです。これが聖書が語っている、教えているいのちと死の定義です。そういう意味でこの世は死んだということは、そのみ絶望と直結するものなのです。

冒頭で、コロナ禍で、また、他の様々な理由で多くの人が絶望し、生きる気力を失い、自分で命を絶ってしまう残念な悲しいことが増えていると申し上げました。人それぞれそのように絶望に捕らわれるいろいろなきっかけなどはあるでしょう。今まで信じていた人に裏切られることによって、その人への失望が絶望に変わり、それで極端な選択をする場合もあります。また、自分の力とは全く関係ないわざわい、災難などによって人生の絶望感を味わう人もいます。ときには病によってなど、様々なきっかけを通して絶望感に襲われるようになり、それで極端な選択などに走る場合もあります。そして、その極端な選択をしていなくても生きることが死ぬことよりまずいよと思いながら生きる人が少なくありません。なぜ多くの人が絶望するのでしようか。あるいは、そうならざるをえないのでしようか。色々なかたちの絶望がありますがそれはきっかけであり、その根っこは死に下されています。この世は神を離れることによっていのちを失いました。そして、死の恐怖につながれて人生を生きるしかないところになってしまいました。基本、根本、絶望です。

イエス・キリストはこの死の勢力を打ち破って死者の中から三日目に勝利の主として復活なさってよみがえられました。これがイエス様の復活です。つまり、イエス様は絶望になるしかないこの死の運命に打ち勝って勝利なさったということなのです。へブル10：20には「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです」と言われています。そのよみがえられたイエス・キリストを通して、死からいのちへと戻ることができる新しい生ける道が設けられたと言われてます。イエスの復活は死の絶望からいのちへの希望へと移動することができる祝福のお知らせです。そのすべてを完璧に設けられた事柄がイエス様の復活だということを覚えていてください。だから、イエスの復活は人生のすべての絶望に終止符を打つ事柄になります。イエス様はそういう意味でおっしゃいました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」と。いのちが入ってくることによって死は自然に消えてなくなります。光が入ってくることによってやみは暴れなくても自然に消えてなくなるのと同じように。やみそのものは、どんなに努力して暴れても消えることはありません。やみが消える方法、やみから自由になる方法は一つしかありません。光が入ってくること以外にはありません。死から自由になり、死の恐怖から自由になり、死の運命、絶望の運命から解放され自由になるのは、いのちに戻ること、いのちが入ってくることしかありません。イエスは復活なさいました。いのちの主であることを証明され、誰でもこのイエスを信じる者は、永遠のいのちの祝福に預かるようになります。永遠のいのちの祝福と言われたときに、あまりにもたくさん言われていて無感覚になっているかもしれませんが、真っ暗な中から光が入って来たという感覚にならないといけません。イエスの他にはありません。死の力を打ち破っていのちの主としてよみがえられた方はイエス以外にはいらっしゃいません。だから、どんなに絶望的な状況であり、どんなに絶望的な人間であっても、復活のイエス・キリストを信じるとその人は生かされます。その人はすべての絶望の人生が終わります。希望にあふれるまことの幸せ、まことの平安のいのちの祝福に預かるようになります。イエス・キリストがおっしゃいました。ヨハネ11：25-26「イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがありません。このことを信じますか」。イエス様を信じると死なないのでしょうか。肉体的に死ぬということは皆が経験するようになります。今イエス様がおっしゃっている死なないというのはそういう意味ではありません。本当の意味での死から解放されていのちに預かるようになり、しかも永遠のいのちを持つようになったので、そういう意味でもう二度と絶望の滅びの死の運命に戻ることなどは決してありません。クリスチャンに絶望というものは存在しません。死の恐怖も消えてなくなりました。滅びる運命も消えてなくなりました。いのちある者は、イエスが復活のいのちなので、イエスを受け入れた者はまことの幸せの主人公であり、すべての絶望はもう終わりました。

皆さん、実験してみてください。暗やみの中で電気をつけても、そのまま暗やみがそこに居座って、威張って、突っ張って「私は行かないよ」というやみがあるのか実験してみてください。光の前でやみは自動的に消えるものなのです。イエスは光、イエスはいのちなので、死の力は終わります。死の恐怖も終わります。その死の中にある絶望の運命ももう終わりなのです。終止符を打つことです。イエスは復活なさいました。ですから、私たちは世界を見渡して、どのような絶望のところであってもイエスの福音を持ってそこに行こうと祈っているわけです。なぜでしょうか。絶望はありませんので。人がどう評価してどう判断してもイエスの復活はすべての絶望に終止符を打ちました。神は、実に、この世をひとり子をお与えになったほどに愛されて、誰でもこのひとり子を信じる者が、滅びることなく、永遠のいのちを得るためなのだと。いのちの祝福が、復活のイエス・キリストにあることを覚えましょう。

改めてイエスの復活は人生のすべての絶望に終止符を打つものと覚えましょう。

それからもう一つ、

2.イエスの復活は、そのイエス様を心に信じて受け入れた信者のこれからの人生の勝利に釘をさすことです。

信者と言っても様々です。レベルも状態もいろいろあります。しかし、イエス・キリスト、復活のイエス様がともにおられる信者は、これからの人生がどのような人生であっても必ず勝利するしかないと釘をさしているものがイエスの復活なのです。今日の聖書を見ますと、天の御座にいらっしゃる復活のイエス様が弟子たちとともにそのしるしと奇跡をもって彼らに勝利を与えられたと記されています。それは、その復活のいのちのイエス様が今現在、生きていらっしゃって信者とともに信者を導き、信者に働きかけていらっしゃるという意味なのです。なので、信者は、条件、状況がどうであれ、自分がどんなに弱い人間であれ、そういうことと一切関係なく、必ず勝利するしかありません。それがイエスの復活なのです。皆さんこれからの人生の勝利、何を根拠にして確信し、また、その希望が持てるのでしょうか。これからの残りの人生、何が起きるかも分からないし、私たちは限界だらけの者ではないでしょうか。にもかかわらず、私は必ず勝利すると言い張ることができる根拠は何でしょうか。一つしかありません。そして、一つ以外に持ってはいけません。イエスの復活だけが根拠なのです。皆さんの勝利をイエスの復活以外の他の何かで天秤にかけたりするということは人間主義であり、不信仰です。とても合理的で計算的で頭がよさそうに思われるかもしれませんが、それはイエスの復活が分かっていない信者の姿です。イエスは天の御座に昇られて、今も生きていらっしゃいます。歴史を動かしていらっしゃいます。教会の頭として教会とともにいらっしゃいます。教会はキリストのからだなるものだと言われるものなのです。それがイエスの復活の意味です。これから信者でも残りの生涯、様々な問題、いろいろな事柄に遭遇するようになるでしょう。いつも願っている通りになり、いつも良いことばかり、そういうことは世にいる間には存在しません。最初からそういうことは考え直さないといけません。しかし、どんなことがあろうが、必ず勝利する！勝利するしかない！と、なぜそう言い切るのか。イエスは復活なさいました。他の人は理解できないでしょう。だから、死の影の谷を歩きながらも私は勝利者なのだと言い張るわけです。罪囚になって鎖につながれていて刑務所の中に入れられていても私は勝利者なのです。この刑務所が私に勝てません。飢えも裸も剣も私に勝てません。なぜなら、イエスが復活なさったので。皆さんが信じている、告白しているイエス様は、復活なさったイエス様なのです。パウロはそのことをこのように言っています。ローマ8：35「私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか」。これ以上何を述べればいいでしょうか。ローマ3：37「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」。なぜそう言えるのか。イエスが復活なさったので。だから、クリスチャンは不思議なものなのです。この世の人の考えに負えられない存在なのです。だから、嫌われるのです。しかし、彼らを愛していのちの福音を伝えなければなりません。イエスが復活なさいました。

また、イエス様ご自身がおっしゃいました。ヨハネ16：33「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」。だから、私たちは負けることはありません。パウロはピリピの手紙においてこのように告白をしています。ピリピ4：12-13「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。状況、条件、環境がどう変わろうが、不利なのか有利なのか、良いか悪いかなどと一切関係なく、私は勝利できるよと告白しています。なぜなら、イエス様が復活なさったので。勝利の主イエス・キリストが、いのちの主イエス・キリストが、今生きておられ万軍の主として私とともにおられるから。これがイエスの復活です。皆さんが信仰を持つということは、ただの思想や論理ではありません。理論ではありません。今も生きていらっしゃるよみがえられた主イエス・キリストがこの礼拝を守って、礼拝の主として皆さんとともにいらっしゃることを私は信じています。復活のイエス・キリストを心から認めると、やみは終わりなのです。もうすでに終わっているのに私たちが知らないでいるだけ、認めていないので、ずっとサタンに、偽りに騙されるだけなのです。何も問題ありません。死(絶望)の人生はもう終わりました。不幸と悲しみとのろいと絶望の人生はもう私たちとは縁のないものになりました。それが分かっている復活の信仰を持っているクリスチャンはどのような状況でも、一般的には絶望するしかない状況の中でも、希望にあふれ圧倒的な勝利者です。神様が私たちを助けてくださるでしょう。そうでなくても私たちは構いません。なぜなら、イエスは復活なさったので、もう絶望は終わりました。このお知らせを皆さんが世の人々に知らせる、それが私たちの祝福なのです。それが私たちの特権なのです。そして、そのために地上にいる間、よみがえられたイエス・キリストが私たちと伴なわれますので、何があっても絶望は終わったよとお知らせしようとするその人生の歩みにおいて勝利を与える方なのです。何があってもそれを突き進めることができるように勝利を与えられる方です。それが今日の読みました聖書の本文の箇所の内容です。私たちは目に見るものによってすべてが左右されるという考え方に慣れています。でも、信仰は目に見えない事柄の保証であり、よみがえられた主は私たちの目に見えません。でも、目に見えるものより確実に事実なのです。

イエスは復活なさいました。その意味を正しく理解して、クリスチャンの皆さんはこれから絶望の思い、嘆きのため息など、そして、敗北者意識のようなものが皆さんに近づこうとしたときには、それが常識的、論理的にどれほど当てはまる内容であっても、一切それは自分と縁のない、自分のものではないという告白をして退けないといけません。イエスの御名によって。

それから、そのために常に私にはイエスのいのちがあります。いのちの主、よみがえられた死を打ち破って勝利なさった復活のイエスが私とともにおられます。だから、私は死の力から解放され、死と罪の原理から解放され、イエスのいのちを持っています。イエスのいのちを持っていると死はそこに一緒に存在することができません。だから、死と罪の原理から解放されていると言われる者なのです。私の中にはイエスのいのちがある。いのちは何だったでしょう。息をしているからいのちではありません。それは犬にもあります。聖書が言っているいのちは、猿にあるいのちを言っているわけではありません。神がともにおられるそのいのちの中に人生の幸せ、人生のすべての良いものが全部詰まっているもの、それをいのちと言います。私はイエスのいのちを持っている者です。だから、天にある霊的すべての祝福の主人公なのです。死の影の谷を歩きながらもそのように告白しないといけません。それが悪魔との戦いであり、もうすでに勝利した戦いなのです。なぜ悪魔、悪霊に勝利のチャンスを譲るのでしょうか。レムナントの小さい子どもたちが弱さのゆえに倒れるときもあります。将来が不安になる場合もあります。イエスのいのちを持っているので不安と絶望などは私とは縁のないものだ。去れ。私は幸いな者なのだ。なぜそう言い切るのか。イエスが復活なさったので。そのイエスが私とともにおられるから。それをいのちと言います。

　それから、皆さんの残りの人生、いつ何が起こるか分からないでしょう。知らないから不安だと、この世的な、一般的な考え方を持つかもしれませんが、知らないから不安になるというのは世の常識であって、信仰の世界ではそういうことはありません。知らないからと言ってもともにおられるイエス様はすべてを知っておられるし、導いていらっしゃるわけですから、残りの自分の生涯に対して、勝利を大前提にして考えるようにしましょう。自分の人生は勝利が前提になっているものなのだと。つまり、これから人生に起こるすべては答えなのだと自分の人生を考えるように、その習慣を持つようにしましょう。楽な人生を求めないで、あるいは楽な人生を期待しないで、何があってもそれに負けないで勝利者になれるのだ、勝利者なのだということを宣言することにポイントを置いていただきたいと思います。イエスは復活なさいました。

そのように絶望の思いを退け、自分が幸いな者なのだ、いのちあるものなのだ、だから、自分の人生はすべてが答えであり勝利しかありませんとなったときに。余計なテーマに捕らわれなくなります。余計な戦いなどをする必要がありません。誰かが悪い良い、これが間違いかどうか、いろいろなテーマ、いろいろな戦いがあります。それは勝利の確信がないからです。ある意味、どうでもいいのです。だから、私のテーマは一つ、神の国と義を求める、福音宣教、伝道者の道、そこだけをテーマにして歩んでいくためなのです。それがイエスの復活の中にある祝福の結果なのです。本当にイエス様の復活を信じる者であれば、他はテーマになりません。無視されたのでしょうか。濡れ衣を着せられたでしょうか。悪いことをしていないのに刑務所に入れられたでしょうか。問題が起きたでしょうか。病気にかかったでしょうか。それでどうしたというのか。圧倒的な勝利でもうすでに幸せな者です。今日死んでも天国に迎えられるものなのです。復活のイエス、つまり、いのちあるものなのです。人生のすべての不幸は結局いのちを失った結果なのです。死の悲しみであり、死の絶望だったわけです。その死の原理から解放されていのちあるものなので、その死の世界と縁が切れているので、それを退けて、それに誘惑されないようにしましょう。希望と勝利だけが皆さんのものなのです。なぜそう思わないといけないのでしょうか。違うテーマに巻き込まれないため、違うテーマに騙されないためにです。正しいか正しくないかは私たちのテーマではありません。正しいから？それがどうしたの？伝道とどういう関係があるのか。無視された、損した。いいよ。私が譲ることができないのは一個しかありません。福音宣教。だから、レムナント大会でも申し上げましたように、イエスの復活を本当に信じて感謝している者は、伝道者の道が自分の職業になります。クリスチャンの職業は一つしかありません。伝道者なのです。副業として、大統領とか長官とか、お医者さんとか大学の教授とかであるだけであって、商売人とか教師などは副業であって、メインジョブというものは伝道者以外にはありません。なぜなら、イエスが復活したので。私たちはいのちを得られたものですから。何がうらやましいのでしょうか。何が狙いなのでしょうか。何を目的にするのでしょうか。何もいりません。いのちが与えられているわけですから。死の恐怖から自由になって解放されているものですから。その死の世界で、不幸の世界でいざこざ、アップアップしているそれと同じくそのテーマに染まって、いざこざする理由など私たちにはありません。

　まとめましょう。イエスの復活、今コロナ禍を生きている私たちにとってイエスの復活は人生のすべての絶望に終止符を打って、信者の私たちの人生に、人生の勝利に釘をさすものなのだと、この契約を握って勝利者として残りの生涯を堂々と歩いて行けるようにお祈りたいと思います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。イエス・キリストが罪のない神様ご自身が、私たちの罪のために死なれ、死の力を打ち破ってよみがえられていのちの主となられ、誰でもそのイエスを信じる者は、イエスのいのちがその人のものとなり、死と罪の原理から解放される、まことの希望のメッセージを心からありがとうございます。イエスの復活を心に覚えて、絶望に終止符を打って、そして、勝利に釘をさして、残りの生涯、絶望に捕らわれてさまよっている世の人々にまことの希望の復活のイエスの証人として、おあかしできるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン